

⑥4 県道相馬亘理線ほか道路整備事業

受賞機関 福島県 相双建設事務所

キーワード 復興まちづくり、事業連携、多重防御

全建賞審査委員会の評価ポイント

被災したJR新地駅周辺部及び新地町沿岸部の道路を新地町復興計画における復興道路と位置づけ、津波からの多重防御施設の一部として高盛土構造により整備した事業。震災復興のシンボルとなる地区について、JR常磐線移設、周辺土地区画整備事業、津波復興拠点事業と連携し、地域の安全性向上と復興まちづくりの賑わい創出等の推進に貢献している点が評価された。

1. はじめに

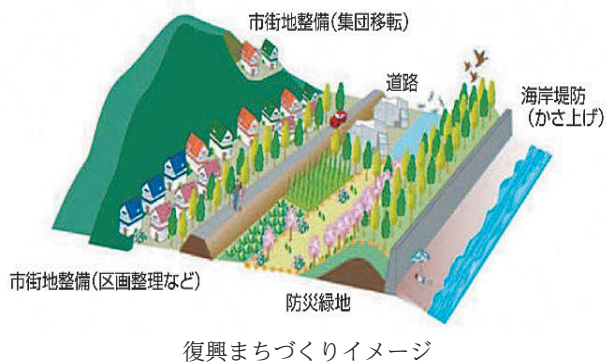
平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震及びそれに伴う大津波により、福島県相馬郡新地町では、町の5分の1にあたる904haで瓦礫と化した家々が散乱する光景が広がり、同時に多くの尊い命を奪った。

県道相馬亘理線も橋梁上部工が流出するなど甚大な被害を受け、長期間の通行止めとなった。

2. 事業の概要

1) 県道相馬亘理線

旧道は海沿いに位置し、沿道には人家があったが、津波により流出し全壊となった。そのため、新地町復興計画において、海岸堤防の整備や防災集団移転促進事業による高台移転、集落跡地への防災緑地の整備と併せ、本路線を「二線堤」としての機能を備えた高盛土構造の道路として整備する「多重防御」を講じることとし、防災拠点施設となる役場や国道6号を浸水被害から守ること及びJR新地駅周辺の安全性の向上などを基本的なコンセプトとして整備を行った。



2) 県道新地停車場釣師線、金山新地停車場線

JR常磐線新地駅及び釣師浜漁港へのアクセス道路であったが、両施設とともに大津波で被害を受けた。JR

常磐線の移設や高架化、新地駅周辺復興土地区画整理事業並びに津波復興拠点整備事業と連携した道路整備を行った。

3) 3路線の事業計画

- ・延長 相馬亘理線 L=3.5km
新地停車場釣師線 L=1.2km
金山新地停車場線 L=0.7km
- ・施工概要（合計数量）
盛土V=80万m³、橋梁N=7橋、カルバートN=7基

3. 事業の成果

新地町復興計画と連携して行うことにより、JR新地駅周辺の安全性の向上と津波被災地における復興まちづくりの一翼としての地域活性化に寄与した。

また、「二線堤」としての機能を備えた高盛土構造の道路として多量の盛土材が必要となったが、津波堆積土をセメント改良することで、コスト縮減を図った。



供用後 (H31.3.13 撮影)

4. おわりに

本事業は、新地町における震災からの各種復興事業と連携して道路整備を行ったものであり、今後、復興のシンボルロードとして地域の発展を支えていくことが期待される。

最後に、この場をお借りして、用地をご提供いただいた皆様及び事業推進にご尽力された工事関係者、全国から応援に駆け付けた自治法派遣職員の皆様に、心より感謝申し上げます。

賛助会員 佐藤工業(株)、東北建設(株)